

令和4年度（2022年度）

教職課程

自己点検評価報告書

四天王寺大学短期大学部

令和5年9月

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検評価	2
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	2
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	5
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	8
III	総合評価	11
IV	「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス	12
V	現況基礎データ一覧	13

I 教職課程の現況及び特色

1 現況

- (1) 大学名：四天王寺大学短期大学部
- (2) 学科名：保育科（免許状の種類：幼稚園教諭二種免許状）
- (3) 所在地：大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1
- (4) 学生数及び教職課程を担当する専任教員数（令和4年5月1日現在）

①学生数

学科	教職課程履修学生数	全体学生数
保育科	79名	158名

②教員数

学科	教職課程科目担当専任教員数 (教職・教科とも)	全体教員数
保育科	10名	11名

2 特色

本学は聖徳太子が敬田院を設立された精神、すなわち宗教的情操教育によって人格の陶冶を図り、広範にして深い知識と高い技術・技能を教授することによって人格の形成に資することを目的として、開学以来、社会に有為な人材の育成に努めている。従って、教員養成に対する理念は、この「建学の精神」に基づいて、地域社会の学術・教育・文化・福祉などの振興と発展に寄与することである。

これに基づいて、本学は、仏教精神を基本とした幼稚園教諭の養成を行い、以下に示すような保育者の養成を目指している。

- ①受容性と共感性を備え、乳幼児の成長発達への援助ができる保育者
- ②専門的な観点から保護者の育児力に対して支援できる保育者
- ③5領域にわたる実践技能を備えた保育者

II 基準領域ごとの教職課程自己点検評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状説明〕

本学の教職課程教育の目的・目標は「卒業認定・学位授与の方針」及び「教育課程編成・実施の方針」等を踏まえて設定しており、「教員養成の目標及びめざす教員像」として履修要覧や本学公式ホームページに明示し、学内の教職員及び学生に周知している。さらに、教職員間で教員養成の目標を共有し、全学的な取り組みを計画的に展開するために、教育研究評議会、学部教授会や教務委員会、教員養成カリキュラム委員会、学科会議などにおいて、教育内容・教育方法を検討し、教員養成に関わる教育の質のさらなる向上を図っている。また、教職教育推進センターを設置し、学生の教育実践力の向上、教育実習等の運営、教員採用試験合格に向けた教職支援等を行っている。【資料Ⅱ-1-1-1】

〔長所・特色〕

目標を達成するための計画として、まず本学の建学の精神である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る基礎教育科目を学修する。次に教員として必要となる豊かな教養を身につけるとともに、それを基盤として科学的な観察力と判断力、国際的な感覚を修得する共通教育科目を学修、そして基礎教育科目共通教育科目で学んだことを基礎にして、専門教育科目において多様な科目を学ぶ。

【資料Ⅱ-1-1-2】

〔取り組み上の課題〕

2年間のカリキュラム全体だけではなく、教職課程教育に焦点を当てた学修成果の可視化をさらに図っていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-1-1-1】四天王寺大学公式 HP（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報の公表：教員養成の質の向上に係る取り組み）

【資料Ⅱ-1-1-2】四天王寺大学公式 HP（教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報の公表：教員養成の目標とそのための計画）

基準項目 1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状説明〕

本学では、文部科学省「教職課程認定基準」に定められた必要教職専任教員数を充足しており、研究者教員だけでなく、学校現場等での実務経験を持つ専任教員が適切に配置されている。

また、教員養成に関わる全学的な委員会組織として、教職課程の運営と質向上を目的とする教員養成カリキュラム委員会（委員長：教務部長）と、学生が教育職・保育職に就くための活動を支援することを目的とするキャリア委員会（委員長：キャリアセンター長）を設置している。いずれの委員会も教職課程を設置する学部・学科の教員、教職に関する科目の担当教員および教務課長、就職課長等で構成されており、事務職員と学部・学科の教職課程担当教員で役割分担をする協働的な体制を構築している。【資料Ⅱ-1-2-1】【資料Ⅱ-1-2-2】

ICT 教育環境については、全ての一般教室に Wi-Fi を完備しており、図書館コンピュータ室には十分な台数のパソコンとプリンターを設置し、教職課程教育を行う環境が整備されている。令和 3（2021）年度には、図書館にノートパソコンの画面を表示するディスプレイと Zoom 等を利用して遠隔会議が行える Web カメラを備えたミーティングテーブルを設置し、教職課程における学生の実践的な学修を支える環境を整えている。なお、貸出し用ノートパソコンも備えており、BD や DVD 等の AV 視聴が出来るスペースを設置し、学生の学修の利便性の向上を図っている。【資料Ⅱ-1-2-5】

教員養成に関する情報公開としては、公式ホームページにて「教育職員免許法施行規則第 22 条の 6 に基づく情報の公表」をしており、教員養成の目標・計画、教員情報、教員採用試験合格状況等を公開している。【資料Ⅱ-1-2-6】また、全学的な教育のみならず教職課程教育の質的向上のために、毎学期実施している授業評価アンケートの結果を公式ホームページにて公開し、同時に教員が授業改善を図れるよう学生にフィードバックを行っている。【資料Ⅱ-1-2-3】【資料Ⅱ-1-2-4】

〔長所・特色〕

本学の教員養成目標を共有し、全学的な取り組みを展開するために、教員養成カリキュラム委員会やキャリア委員会、教務委員会、学部教授会、学科会議等により、多角的に教育内容・教育方法を検討し、教員養成に関わる教育の質のさらなる向上を図っている。保育科において、実務経験の豊富な専任教員を中心に学生の教育実践力の向上、教育実習等の運営、教員採用試験合格に向けた教職支援等を行っている。

〔取り組み上の課題〕

教育職員免許法の改正や本学における教員養成カリキュラムの見直し等に伴い、学生の入学年度によって異なる履修指導が必要となる場合がある。全学で共有する教職課程全般の手引き等の作成を検討し、指導内容の共有を強化する。

<根拠となる資料・データ等>

- 【資料Ⅱ-1-2-1】 四天王寺大学・四天王寺大学大学院・四天王寺大学短期大学部
教員養成カリキュラム委員会規程
- 【資料Ⅱ-1-2-2】 四天王寺大学・四天王寺大学大学院・四天王寺大学短期大学部
キャリア委員会規程
- 【資料Ⅱ-1-2-3】 令和4年度夏学期授業評価アンケート結果
- 【資料Ⅱ-1-2-4】 令和4年度冬学期授業評価アンケート結果
- 【資料Ⅱ-1-2-5】 四天王寺大学公式HP (ICT 模擬授業教室、ICT アクティブ・ラーニング教室)
- 【資料Ⅱ-1-2-6】 四天王寺大学公式HP (教育職員免許法施行規則第22条の6に基づく情報の公表)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状説明〕

本学における「卒業認定・学位授与の方針」「教育課程の編成・実施の方針」を踏まえた「教員養成の目標及びめざす教員像」を公式ホームページおよび履修要覧等において学内外に向けて発信し、教職課程を設置する保育科の「入学者受入れの方針」に基づいた学生募集および選考を実施している。【資料Ⅱ-2-1-1】【資料Ⅱ-2-1-2】

また、「教育実習」の参加要件（修得単位数、指定科目の修得など）を定めることで、教職を担うに相応しい素養をもった学生の育成を目指している。【資料Ⅱ-2-1-3】

なお、教職指導については、学生は2 Semester・3 Semester時や教育実習終了後に、振り返りから自己課題の気づきに繋げるため、ポータルサイトにある「履修カルテ」に自己評価や課題を入力している。また、4 Semesterの「保育・教職実践演習（幼稚園）」の履修時には、担任教員が総合評価をしている。その際、自己評価と他者評価を活用することで、学生の適性や資質に応じた教職指導を行っている。【資料Ⅱ-2-1-4】

〔長所・特色〕

本学では、保育科の専任教員が中心となり、キャリアセンターや教務部が連携をとりながら、学生への就職ガイダンスや採用試験対策、幼稚園教諭として活躍する卒業生との交流の支援、加えて窓口においても必要に合わせた履修指導や就職支援を行っている。また、教員に求められる専門知識のみならず、本学の「建学の精神」である宗教的情操教育と人権に関する教育を行い、人格の陶冶を図る基礎教育科目の履修を必須としており、子どもたちの生命と心を護り、愛情をもって教育できる人間性豊かな教師の育成を目指している。

〔取り組み上の課題〕

18 歳人口の減少に加え、教員の待遇などの社会問題により、学生募集の段階で

の教員希望者が減少傾向にあるため、今後、教員志望学生の確保が厳しくなっていくことが予想される。また、入学後においては、教員免許取得のために多くの単位を修得することが必要であることなどから、進路変更をする学生もおり、手厚いサポートが必要である。

<根拠となる資料・データ等>

- 【資料Ⅱ-2-1-1】 四天王寺大学公式 HP（教育研究上の目的・3つのポリシー等）
令和4年度履修要覧
- 【資料Ⅱ-2-1-2】 四天王寺大学公式 HP（教員養成の目標及びめざす教員像）
令和4年度履修要覧 pp.14-18
- 【資料Ⅱ-2-1-3】 四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部単位の修得および試験に関する規程
- 【資料Ⅱ-2-1-4】 学外実習の手引き（幼稚園・保育所・施設）
令和4年度履修要覧

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔現状説明〕

本学はクラス担任制を採用しており、クラス担任が個別に学生と面談を実施して、学生の教職に対する意欲や適性を教学面から把握している。学科は、キャリアセンターと連携し、幼稚園教諭の実務経験を有する国家資格キャリアコンサルタントの専任職員が、学生の希望等に応じて採用試験に向けて面談等を実施している。

また、キャリアセンター長・副センター長、学科の専任教員、就職課長等で構成されたキャリア委員会を設置しており、学生の進路に関する事項を協議し、就職、進学等の活動を支援している。【資料Ⅱ-2-2-1】 さらに、学生が教育職に就くための活動を支援するため、教職支援委員会を設置しており、教員採用試験に関わる学生相談業務、教科の指導に関する業務、教員採用試験対策講座、模擬試験等の業務を遂行して、教員就職率を高める工夫をしている。その他、学生の就職状況については大学運営会議、学部教授会、学科会議、事務局連絡会等で随時報告され、全教職員で共有して迅速な就職支援対策を実行している。【資料Ⅱ-2-2-2】

なお、より多くの求人依頼を確保するため、キャリアセンターにおいて、採用担

当者向けにパンフレット「CAREER GUIDE」(学科別卒業予定者数等記載)を作成し、学生の通勤圏である幼稚園等へ郵送している。また、求人票、個別園パンフレット、公務員試験募集要項、就職関連図書、卒業生が試験内容や後輩へのアドバイスを記入した「受験報告書」等、学生が常時自由に閲覧、情報収集できる環境を整えており、学科と連携して1年次は公立園、2年次は私立園の就職ガイダンスを実施している。【資料Ⅱ-2-2-3】

〔長所・特色〕

保育科所属の全専任教員とキャリアセンター専任職員(国家資格キャリアコンサルタント)の協働体制が円滑であるため、学生一人一人の学修状況と就職進捗状況が情報共有され、迅速で有効な就職支援が行われている。また、キャリアセンターが各園との独自のネットワークを持ち情報収集に努め、各園の状況を熟知した専任職員が、学生の希望や適性に応じて園の紹介を行い、効率的かつ円滑な学生のキャリア支援に繋げている。さらに、キャリアセンターの職員および専任教員による卒業生の就職先への定期的な訪問や、卒業生および卒業生の就職した幼稚園、保育所等に対するアンケート調査の実施を通して、卒業生の適応状況を把握することにより、学生への就職支援活動の一助としている。

〔取り組み上の課題〕

教員志望者が減少傾向にある昨今、就職状況や幼稚園教諭の魅力の情報発信を公式ホームページ等により活発化する必要がある。また、より質の高い教員を輩出するため、卒業生アンケートで収集したタイムリーな情報を学内において共有し、教職員の共通認識をより高めることが課題である。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-2-2-1】四天王寺大学短期大学部キャリア委員会規程

【資料Ⅱ-2-2-2】「四天王寺大学短期大学部教職支援委員会規程」

【資料Ⅱ-2-2-3】「CAREER GUIDE」

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状説明〕

保育科の目的を踏まえ、保育科のカリキュラムにおいて教職課程の科目と保育士資格課程の科目の系統性を確保した上で、コアカリキュラムに対応する教職課程カリキュラムを編成している。また、履修上限を踏まえ、本学の「建学の精神」を学ぶ基礎教育科目の「和の精神Ⅰ・Ⅱ」の修得を必須とすることで、2年間で取得希望免許に関する専門知識だけではなく、「和の精神」に基づいた日常の心構えと態度を身につけた人間性豊かな教員の育成を目指している。【資料Ⅱ-3-1-1】また、卒業に必要となる修得単位数の設定や専門知識の土台となる科目の修得および保育・幼児教育で必要となるピアノ演奏に関する基本的・基礎的な知識や技能の習得を求めている。

ICT機器の操作を学び、情報活用能力を育てる教育への対応科目として1年次では「情報処理演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次には「プログラミング」、「情報システム」、教職課程科目の「教育の方法および技術」といった科目を設置し、適切な指導を行っている。また、デジタルストーリーテリングの実践を授業内容に組み込んでいる。

また、保育科の「教育課程編成・実施の方針」においても、教育方法としてアクティブ・ラーニングを取り入れることを明記し、これを教職課程科目において推進している。【資料Ⅱ-3-1-2】

なお、シラバスにおいては、コアカリキュラムに対応した学修内容や、授業方法、評価方法等を学生に明示しており、科目ごとに具体的な到達目標を設定している。

【資料Ⅱ-3-1-3】

学生は、2 Semester・3 Semester時や教育実習の終了後に、振り返りから自己課題の気づきに繋げるため、ポータルサイトにある「履修カルテ」に自己評価や課題を入力している。その蓄積を活かして自身の現状分析や担任教員による他者評価を活用することで、総まとめとなる「保育・教職実践演習（幼稚園）」において学生の適性や資質に応じた指導を行っている。

〔長所・特色〕

異学年交流や地域の保育現場と連携したアクティブ・ラーニングによる教育を実施している。また、保育実践力を身に付ける意欲を高め、慈愛に満ちた保育者としての態度を培うことができるよう、保育科全教員がチームティーチング制で指導にあたり、学生の学びを推進している。

〔取り組み上の課題〕

2年間で幼稚園教諭二種免許状と保育士資格の取得を目指すため、履修上限を超えて履修が必要になる場合がある。学生の負担軽減に向けてカリキュラムのスリム化を検討する必要がある。

＜根拠となる資料・データ等＞

【資料Ⅱ-3-1-1】令和4年度 履修要覧

【資料Ⅱ-3-1-2】2022年度アクティブ・ラーニングを取り入れた授業の割合

【資料Ⅱ-3-1-3】シラバス照会

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状説明〕

1 セメスター時に履修する「保育実践演習Ⅰ」において、近隣の幼稚園・保育園に赴き、子どもたちと触れ合うことで、保育現場を知るきっかけとしている。また、「教育実習指導」では、事前指導において、必要な知識、技術、態度等を学び、事後指導では実践を振り返り保育者としての資質・能力について学びを深めている。

また、入学予定者へピアノ初心者講座開催及びキーボードの無料貸し出しを行っており、入学前からピアノ学習の取り組みを始めている。

〔長所・特色〕

1 セメスター時に、実際に保育現場へ赴くことで、子どもの生活環境を把握し、子ども理解、子どもへの関わり方などの自己課題を発見し、その後の実習へ繋げている。なお、教育実習期間中には、保育科教員全員が各実習園を訪問し、学生の実習状況等について把握するとともにその後の指導に活かしている。また、「保育・

教職実践演習（幼稚園）」では、幼稚園教諭による特別講義「幼稚園教諭という仕事」を実施し、学校教育の始まりとしての幼稚園の位置づけから、日常や行事、子どもの実態や保育実践について学ぶ機会を設けている。

〔取り組み上の課題〕

令和4年度まではコロナウィルス感染症の影響で、2 Semester時に実施している「出前保育」に出向く学生数を減らし、参加する幼児も年長クラスを中心に少人数に絞ったため、本来の交流機会を設けることができなかった。今後、コロナ禍前の状態に戻していくことに尽力し、保育現場や地域と連携した活動を通して、学生の主体的な学びをより深めていく必要がある。

<根拠となる資料・データ等>

【資料Ⅱ-3-2-1】

【資料Ⅱ-3-2-2】

Ⅲ 総合評価

本学は、「建学の精神」に基づき、仏教精神を基盤においた幼稚園教諭を養成することを目標とし、さらに本学が養成する保育者の姿として具体的に3点を明示している。この目標は、保育科教員はもちろんのこと、学内の全学的な会議体から委員会組織、キャリアセンターや教職教育推進センター等を通じて教職員間で共有化され、幼稚園教諭養成課程カリキュラムの編成、実施とその評価、改善を通して本学の教職課程教育の質のさらなる向上を図ってきた。

今後の課題として、2年間の教職課程教育における学修の成果をより精緻に検証するため、本学ですでに学科カリキュラムで実施している各科目の成績評価状況等を教職課程科目に焦点を当てて点検を行うことが挙げられる。また、教育職員免許法の改定や本学における教員養成カリキュラムの見直し等により、入学年度によってそのカリキュラムが相違する面があることから、教職課程のガイドラインを再検証し、教職課程の運用面や学生指導面などにおいて教職員間の共有化と連携をさらに強化していく必要がある。

幼稚園教諭というキャリアに向けての学生の育成や支援においては、クラス担任が定期的に学生と面談をし、また、各セメスターや実習等の終了時に履修カルテをもとに学生が省察を行っている。これらをもとにして教職課程教員は、教員を目指す上での各学生の適性や学修意欲、課題等に応じた指導を2年間かけて行っている。そして、教職課程カリキュラムは、アクティブ・ラーニングの実施やICT機器の活用能力を育てる科目の設置等も含めて、教職課程のコアカリキュラムに依拠して編成している。また、キャリアセンターには幼稚園教諭の経験に加えてキャリアコンサルタントの国家資格をもつ専任職員を配置しており、教職課程教員とキャリアセンターが連携しながら個々の学生の希望や適性に応じて幼稚園等への就職支援を行っている。

他方で課題としては、1セメスター次から地域の保育現場に出向いて活動や実習等を継続的に行ってきたが、コロナ禍となってからは令和4年度においてもそれを縮小して実施せざるを得なかった。今後、コロナ禍前の状態に戻していくこ

とで、実践的指導力の育成と強化をさらに図っていく必要がある。また、教員免許取得のためには多くの単位を修得する必要があるために教員志望を断念する学生もいる。こうした学生への指導や支援も重要な課題である。

最後に、本学は今回の自己点検評価活動を通じて教職課程教育を適切に実施することができていると評価した。しかし、今回明らかになった課題を、幼稚園教諭養成課程を設置する保育科、教員養成カリキュラム委員会だけでなく学内全体で共有し、その課題の改善、解消に向けた努力を不断に行っていくことによって本学の教職課程教育の質のさらなる向上を図っていききたい。

IV 「教職課程自己点検評価報告書」作成プロセス

教員養成カリキュラム委員会において、教職課程における自己点検評価の実施に向けた作成スケジュール、点検項目等の確認を行い、教務部・教職教育推進センターを中心に教職課程自己点検評価報告書（案）を作成した。さらに、本学の教職課程を有する保育科において内容の確認および共有を図り、報告書原案に学部・学科の修正を反映させ、教員養成カリキュラム委員会にて審議を諮り、最終案とした。その後、全学的な審議機関である教育研究評議会において承認を得て本学公式ホームページに公表した。

V 現況基礎データ一覧

令和4年5月1日現在

法人名 学校法人四天王寺学園					
大学・学部名 四天王寺大学短期大学部					
学科・コース名（必要な場合） 保育科					
1 卒業者数、教員免許状取得者数、教員就職者数等					
① 昨年度卒業者数					77名
② ①のうち、就職者数 (企業、公務員等を含む)					65名
③ ①のうち、教員免許状取得者の実数 (複数免許状取得者も1と数える)					74名
④ ②のうち、教職に就いた者の数 (正規採用+臨時的任用の合計数)					25名
⑤ のうち、正規採用者数					25名
④ のうち、臨時的任用者数					0名
2 教員組織					
	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	5名	3名	3名	0名	—
相談員・支援員など専門職員数：0名					